

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	校是「未来拓創」と校訓「自主・創造・敬愛」を規範とし、自由で伸びやかな校風のもと、豊かな人間性と社会性を伸長し、知・徳・体の調和のとれた個性あふれる有為な人材を育成する。
------------	---

(2) 現状と課題	本校の農業科では農業教育や寮教育を基盤とする専門教育の他、農業クラブ活動や部活動等に積極的に取り組むことができる恵まれた教育環境のなかで、チャレンジ精神旺盛でたくましい生徒が活動している。設置されて4年目となる普通科も、学校行事には農業科の生徒と合同で運営・参加するなどにより融合を図り、また恵まれた教育資源を活かすことで、特色ある教育を実施することができる環境にある。 今年度は、特に普通科の学校設定科目の指導内容や指導方法等の充実が課題である。また、生徒及び教職員が安心して学校生活を送ることができる環境を整えるための体制づくりに、農業科のみならず全校をあげて取り組む必要がある。
-----------	---

(3) 重点目標	1. 学力の向上と自己教育力の育成
	2. 個に応じた生徒指導の充実と保健・安全教育の実践
	3. キャリア教育の実践と進路目標の実現
	4. 特色ある普通科、魅力あふれる農業科教育、それぞれの充実と融合
	5. 教職員の資質向上

(4) 結果の公表	本校ホームページに掲載し、保護者や学校関係者に公表するとともに広く一般にも公表する。
-----------	--

学校整理番号	31
学 校 名	青森県立三本木農業恵拓高等学校
全日制の課程	

自己評価実施日	令和7年1月7日(火)
学校関係者評価実施日	令和7年1月30日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
構成：保護者代表1名、学識経験者（農業機関）1名、同窓会代表1名、学識経験者（高校教育）1名、地域農業経営者1名、地域住民1名の計6名。学校評議員会の場で評価していただいている。

自 己 評 価				学校関係者評価	(9) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	基礎学力の定着と主体的な学びにつながる授業実践	(1) わかる授業を実践し、基礎学力を定着させる。 (2) 指導方法、評価方法の工夫改善で生徒の達成感や学習意欲を高める。 (3) 自ら学ぶ意欲を引き出し、学習習慣を定着させる。 (4) 主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業を展開・工夫する。 (5) 検定・資格取得を積極的に奨励する。 (6) 学習効果を上げるためのICT活用を推進する。	(1) 学習習慣の定着や自らより高度な学習内容に取り組む意欲向上のために、総合的な探究の時間や課題演習の時間の有効活用が効果的だった。 (2) 生徒の学習意欲向上により効果的な評価のあり方について検証することができた。 (3) 各種検定の受験を積極的に推奨することにより、普通科及び農業科ともに多くの生徒が資格取得に取り組んでいる。 (4) ICTを積極的に活用し、わかる授業実践に取り組んでいる。 (5) 朝読書の時間を効果的に活用することにより、生徒の語彙力や表現力を育成することができた。	これからは、生徒が興味・関心を持つような授業展開を求められている。そのことが、生徒の主体的な活動を生み、結果的に生徒目標の授業につながる。公開授業に参加した学校評議員から概ね良好であると評価をいただいた。	今後、生徒の目線に興味・関心を持つような授業を展開するが、生徒の身に付けなければならない基礎基本の定着を確実に行う。 次年度に引き続き今年度も同様、朝読書の時間を設定し、語彙力や表現力の育成を図るとともにオンとオフの切り替えの習慣を身につけさせる。さらに、国語基礎力テストも引き続き実施する。 授業でICTの効果的な活用についても推進する。

2	安全安心な学校における基本的な生活習慣の確立と生徒理解の充実	(1) 教育相談体制の充実や生徒理解に努め、情報を共有し、不登校やいじめ、事故や問題行動の早期発見や未然防止をする。 (2) 生徒・保護者・教職員、三者間の連携を図り、信頼関係を強くする。 (3) 部活動・生徒会活動・ボランティア活動を活性化する。 (4) 保健・安全教育を通じて、自己管理意識と対応能力を向上させる。 (5) 校舎内外の清掃・環境整備等を通じて、教育環境を充実させる。 (6) あらゆる教育活動をとおして基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 教育相談や支援を必要とする生徒への対応については、対応策の検討と体制作りが必要である。 (2) 朝の挨拶運動をはじめ、教室における生徒の様子を確認することと積極的な声掛けを行うことで生徒理解に努めた。 (3) 安全・安心に学校生活を送ることができるように施設・設備の点検、そして、普段の授業では、生徒の自己管理能力と対応能力の育成に取り組んだ。 (4) 各種行事を活性化させ、生徒の参画意識を高揚させることができた。	多様な生徒が入学してくる中、担当教員の負担を軽減するためにも教育相談委員会で対応してほしいと学校評議委員よりコメントをいただいた。また、各種の問題や課題への対応についても概ね良好であるといいただいたが、未然に問題行動を防ぐためにも早めの対応をお願いしたいとのご意見をいただいた。	困り感のある生徒の入学が少しずつ増えてきているので、来年度は、早急に教育相談委員会の体制作りに取り組む。多様な生徒の対応を一人の教員で抱えるのではなく、委員会が中心となって支援することが必要である。 安全安心な学校をつくるために、清掃時間の活用や定期的な点検により、安全確認をするとともに、危機管理マニュアルのさらなる充実を図っていく。 また、教職員も生徒も安全安心に対する意識を高める取組をさらに進めていく必要がある。
3	進路を保証するためのキャリア教育の推進	(1) 自己の個性を理解し、主体的に進路選択できる能力・態度を育成する。 (2) きめ細かな進路相談を行い、進路目標の早期明確化と進路実現を図る。 (3) 職場見学、インターンシップ等の体験活動を充実する。 (4) 望ましい職業観・勤労観育成のため、段階に応じて計画的に取り組む。 (5) 進学・就職等の面談・小論文指導に学校全体で取り組む。	(1) 各種講演会や進路説明会により、生徒自身が自己を見つめ、自身の進路希望について理解することができた。 (2) 生徒が自ら進路目標を具体的に設定するためには、もっと丁寧で確かなアドバイスの必要性を感じた。 (3) 職場体験やオープンキャンパス等をとおして、職業観や勤労観の育成、進学に対する意識を高めることができた。 (4) 本人の進路希望が第一なので、進路希望が実力以上に高い生徒の指導に苦労している。	農業高校と普通高校を併設する学校として、本校の魅力を発信することが必要である。魅力の一つに進路先がある。毎年のように合格者で大学や職場を確保、開拓していく必要があるとご意見をいただいた。	農業高校と普通高校が一つの学校にあるという本校の強みを生かし、地域との連携を強化する。 生徒が自己を見つめ、自身の進路希望と実力を理解するための指導体制を確立する。 進路に関する体験活動やオープンキャンパス等を推進し、早めの進路決定を図る。

4	地域連携と本校の特色を生かした教育の実現	(1) 普通科では、SDGsの実現やSociety 5.0における現代的な諸課題への対応を図るために、国際的な学びや地域や社会の課題について、地域・大学・企業等と協力した探究活動に取り組む。 (2) 農業科では、地域・大学・企業等と協力しながら地域農業の課題や優位性を探究し、農業クラブ活動やプロジェクト学習等を充実させ、地域連携事業や国際交流事業へ積極的に参画する。	(1) 総合的な探究の時間で課題の調べ方や仮説及び検証方法について学ぶとともに実際に地域課題について外部人材を活用しながら課題解決学習をすることができた。 (2) 課題研究やプロジェクト活動をととして、農業の抱える課題や新しい農業についてのあり方などを検証し、資源の有効活用について考えることで地域農業の大切さを学ぶことができた。 (3) オランダや台湾の海外研修等をととして、日本だけでなく国際農業についても学ぶ機会があり、これまで身に付けた知識を深めることができた。	普通科の総合的な探究の時間における地域課題解決に向けた取組と農業科の課題研究の取組で生徒の日頃の研究活動成果をプロジェクトオブザイヤーで聞くことができて本校のすばらしさを実感できたというご意見をいただいた。 本校の強みである国際交流や外部との連携を生かして、社会に求められる力を生徒に身に付けさせてほしい。	本校の特色である農業高校と普通高校の融合を生かした教育活動の発見とそれを運営する体制を構築する。 生徒が自身の研究課題を見つけるための地域交流や外部講師の活用、見学等のさらなる充実を図る。 生徒の研究に、教職員も適切なアドバイスや指導ができるように研修等の充実を図る。
5	教職員の資質能力の向上	(1) 人間力・社会力・教育力を磨くために校内外の職員研修に努めるとともに公開授業、研究授業等を積極的に行う。 (2) 学び直し学習、UD化授業を試行・研究する。 (3) 仕事と生活の両立ができる職場環境づくりに努めるとともに、保護者、地域から信頼される教職員になる。 (4) 生徒に安全・安心な生活環境を提供できるよう対策を講じるとともに、校内外の職員研修に努める。	(1) 教職員の研修を推奨し、生徒の学び直しやUD化授業を取り入れた研究授業を推奨した。 (2) 教職員が仕事と生活を充実できる職場環境づくりに取り組んだ。 (3) 働き方改革については、業務の精選をしているものの、仕事量も多く、未だ課題の解決に至っていない。 (4) 安全安心な学校を目指し、安全管理の校内研修を実施し、成果を上げてきている。	多様な生徒支援のために生徒の困り感の把握や学び直し、UD化授業などに対応できる力を研修会等をととして、教職員が身に付けてほしい。 教職員のみなさんも忙しいとは思いますが、QOLを大切にしてほしいとご意見をいただきました。	多様な生徒が増え、教職員の負担感も増加しているが、業務を精選し、生徒のためにできることを確実に実行するよう教職員の負担感を減らす。 日頃から、服務規律確保に向けて呼びかけるとともに定期的に研修会を実施する。

(11) 総括	今年度三本木農業恵拓高校として2度目の卒業生を送り出したが、これまでの系統的な指導体制を踏まえながら、より充実化を図りたい。また、進路達成状況から一定の成果を上げているが、すべての生徒の希望達成は難しく、今後更なる進路決定の充実を図る取り組みが必要である。 相撲部、アーチェリー部、馬術部のインターハイ出場やサッカー部とラグビー部の東北大会出場、吹奏楽部の県コンテスト金賞受賞など、おおくの部活動が熱心に活動し、学校全体のモチベーションを上げ、学校活性化や生徒の規範意識の向上につながっているが、その分、先生方の負担も大きい。その対策が大きな課題である。 本校の特色ある教育について、学校関係者評価では有意義なご提言とともに概ね好意的な評価をいただいた。次年度も、教育活動のさらなる改善と充実に努めていきたい。
---------	--